

自動車部との握手は存した。本部は十月二十七日、執行委員会の決定を以て、各支部宛十一月四日定期合同大会開催に關する通告を發した。斯くして今日午後二時から芝公園協調会館には約一ヶ月前より、電車、自動車、非東支各部の代議員列席の昭和八年度入会式を在れた。

大会前に於ける諸情勢からして、大会過程に就いて多分、興味が持たれた。併し、此れを終始して、各部代議員は理事に對する詮索論争を避けて、表面的波乱を極力制せんとするの旨運が看取せられた。

出席代議員總數

二八九名(定員三一〇名)

内譯

電車部	一六五名
自動車部	五七名
車庫部	二四名
軌工部	一九名
電力部	一三名
工場部	一八名
電気部	一四名

一、組合の統一強化で第二更生業粉砕

一、反動ファツシヨを叩き出せ

一、大会を通じて逆襲斗争へ

一、大衆の圧力に依つて団体協約を締結しろ

一、我等の城塞東支を守れ

一、全国交通労働者の大同團結へ

一、東京交通労働組合大会方寸

以上七項目のスコロカンと掲げて、司会者掛札盛(電車錦糸堀)は開会の辭を述べ、議長河野平次、副議長熊本利男、内海吉吉以下各種委員の選挙の後、関東労働組合会議代表加藤勘十、市橋淺沼稿次郎、大阪市電自助会代表石原猪造外十余名の祝詞、並に外訳文証団体よりのメソセージ、祝電の披露に入った。

加藤勘十は電気局第二更生案を控えての東支合同確立の意義を説き、淺沼稿次郎は東京市政の内情曝露から電気局長移動と第二更生案による所謂彈圧に及び、東支の確固たる存在を希望した。

次に大会は、(イ)組合統一活動、(ロ)第二更生案紛争準備活動

(ハ)中間バギリ車應援車掌廢止反對斗争等七項目に亘る経過報告(内海吉吉、早稲田)及び会計報告(高橋藤藏、三田車庫)ハ